

令和7年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立野里小学校

校長 芦高 浩一

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○教職員の協働および学級・学年・学校経営の安定

<校訓>	<めざす子ども像>	<学校教育目標>
ただしく なかよく たくましく	○ 一生懸命考える子 ○ 心豊かな子 ○ 元気な子 ○ 仲間を大切にする子 ○ 気持ちよくあいさつする子	豊かな人間性を育み、正しく 仲よくたくましく生きぬく 子を育てる

○保護者・地域とのよりよい連携

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校に行くのは楽しいと思いますか」に「そう思う」との回答が、37.5～53.8%（R3:28.1～50.8%）であった。また、「自分には良いところがあると思いますか」に「そう思う」との回答は40.0～50.0%（R3:26.3～42.9%）であった。

学級経営の力量向上に向けた自主的な研修や縦割り活動を中心とする異年齢集団活動の充実により集団生活のルールやマナーを意識した学校生活を過ごす態度の育成が進んでいる。しかし、3年間に渡る校舎改修工事や児童数の減少により体験的な活動が制限され、児童の学習活動に少なからず影響が残っている。また「働き方改革」に伴う勤務時間については、教職員の実態を考慮しつつ教育活動の充実をめざして効率的かつ効果的に運用していく必要がある。

全教職員でカリキュラム・マネジメントを意識して本校の教育課程を見直し、各教職員が力量を発揮できる協働性の高い組織づくりが問われている。そして、児童虐待やネグレクト、ヤングケアラー等の課題については、保護者や地域の協力や関係機関との連携を密にして開かれた学校づくりを大切にしたい。

また、「いじめ・問題行動・不登校」等の対策には、組織的対応・即時解決に努め、適宜、関係機関連携を行っている。しかし、家庭との連携が困難なケースが増え、不登校傾向の児童が増加しつつある。教職員全体で児童理解や情報共有の機会を定期的に設け、さらに教職員と児童・保護者、児童相互の関係性を深めるために、「自尊感情」を高める学級・学校づくりに努めている。

そして、安全・安心な学級づくりを進めるために、コミュニケーションの力を伸ばせるよう「国語科」を研究の柱として体制を整備していく。その際、学級経営を進める上でインクルーシブ教育の視点を持ち、児童理解を深めながら児童の実態に合った指導や支援を継続していくことが大切であると考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校が休みの日にインターネットを使って動画やゲーム SNS をしている時間」に「4時間以上」との回答が27.5～44.2%であった。特に月曜日には欠席や遅刻の児童数が多く、授業に参加できていないことが学力・体力の低下に影響を及ぼしている。

また、児童数に伴う学級や教員の数は減少しており、指導者の授業力向上に関する研鑽や児童理解等に対する知識や経験の差は大きな課題となっている。そこで、より分かりやすい授業をめざして教員自身が教材研究に取り組む時間を確保することで児童が主体的に学ぶ授業構成を工夫していく必要がある。

健康・体力面については、毎日の健康観察を念入りに実施している。規則正しい生活習慣の確立に向けては、家庭との連携のもと、早寝・早起きの声掛けや毎日の食の指導を通して、健康な体づくりへの意識を高めている。特に睡眠やスマホ・ゲームの時間等については家庭の協力が不可欠なので家庭への啓発を継続していく。

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台端末の整備により、個別最適化を意識した学習の時間を確保が進んでいる。授業の中で対話的な学びと適切に組み合わせて学習することで学習内容の定着が期待できる。そのためには、教員同士の情報交流を深め、ICT活用への学びを深める研修機会を計画的に設定していく。

ただ、家庭の状況や教員の技能面でまだばらつきが残るため、家庭と連携を深めながら教員の技能向上をめざしていく。また、ICT活用による、教職員の働き方改革について、校務の見直しや精選を図ることで効率化に努める等、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保できる環境を整えていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

中期① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を90%以上にする。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

中期② 令和7年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度より減少させる。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

中期③ 令和7年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期① 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を35%以上にする。 (基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

中期② 令和7年度の全国体力・運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を62.6%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

中期① 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を75%以上にする。

(基本的な方向6 教育DXの推進)

中期② 令和7年度末までにゆとりの日を、週1回は設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

年度① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85.5%以上にする。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

年度② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

年度③ 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

年度② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を63%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

年度① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の51%以上にする。[ただし事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く]

(基本的な方向6 教育DXの推進)

年度② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を87%以上にする。

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

4 令和7年度の自己評価結果の総括

総括

本校は令和4年4月～令和8年3月末の4年間で児童数74名、通常学級数4学級が減少した。また、この間に職員の不祥事による退職1名、教員の病気休暇取得後の退職2名があったものの、講師の配置はない状態で教員の負担が増加した。加えて、育児時間の取得2名、男性育児休暇取得2名を抱え、働き方改革（働きやすい職場づくり）への具体的な取り組みの重要性を痛感している。

本校では教員の資質向上や校務による拘束時間の軽減を最重要課題としてきた。そこで、研修時間や各自のワークライフバランスを確保するために会議や行事について精選を行った。校時変更やカリキュラム・マネジメント等を通して工夫したところ、一定の成果は得たものの新たな課題が生じている。

令和8～11年度の大阪市教育振興基本計画に沿って本校の実態に応じた課題の把握とその解決に向けた取り組みについて、今後を見通して全員で共有して進めていく必要がある。

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度の全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は95%で目標の90%を達成した。

令和7年度の校内調査「不登校児童の在籍比率」の結果(6名/2.5%)は、令和3年度(3名/1%)に比べて増加した。当時はコロナ不安による欠席等は欠席扱いとならなかったことが増加の一因だと考えられる。(令和6年度の6名/2.6%より減少している。)

令和7年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に肯定的な回答した児童の割合は93.5%であり目標の100%に達しなかった。引き続き家庭への啓発や協力をお願いする必要がある。(目標設定の100%は、家庭の状況を踏まえると不可能であると思われる。)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の小学校学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に最も肯定的に答えた児童の割合は45%であり目標の35%を達成した。

令和7年度の全国体力・運動習慣等調査「運動やスポーツをすることが好きですか」に最も肯定的に答えた児童の割合は73.7%であり目標の62.6%を達成した。

【学びを支える教育環境の充実】

令和7年度末の校内調査「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に「ほぼ毎日」と答えた児童の割合は80.6%であり目標の75%を達成した。

令和7年度末までにゆとりの日を週1回は設定した。また、学校閉庁日について、夏季休業期間中は3日以上(4日)、夏季休業以外の休業期間では1日以上(2日)設定した。

次期大阪市教育振興基本計画のもと単学級化が進む本校の現状を踏まえ、協働性の高い組織づくりの推進が喫緊の課題である。課題解決に向けては、本校の重点目標について教職員全員が共通理解を深めた上で取り組み内容を吟味・精選する必要がある。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>年度① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85.5%以上にする。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>年度② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>年度③ 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を100%にする。(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】 生活指導連絡会などにおいて、児童理解・保護者との連携について共通理解しながら対応する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外で発生した生活指導上の問題点について、生活指導連絡会を月1回以上実施してその対応を協議する。問題が発生した際には、状況をすぐに全教職員で共通理解できるように、随時SKIP連絡掲示板や「いいところみつけ」を活用して、安心・安全な学校づくりに努める。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 自己有用感を高め、望ましい人間関係を構築する。また、話し合い活動や体験学習を積み重ねることで、コミュニケーション能力を身につけ、様々な友だちと協力できる体制を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> たてわり班活動（たてわり班での清掃や集会等を含む）を中心とした異年齢交流を学期に1回以上、全校やペア学年で実施し、児童のコミュニケーション能力を高める。 代表委員会を中心に「あいさつ運動」を週1回以上行い、気持ちのよいあいさつがすすんでできる児童の育成を図る。学校教育アンケートにおける「すすんであいさつがいえまう」と最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>取組内容①</p> <p>生活指導連絡会を計画通り月1回以上実施し、校内外で発生した生活指導上の問題点や児童の様子について、全教職員で情報共有と対応の協議を行ってきた。また、問題が発生した際には、スキップの連絡掲示板や「いいところみつけ」を活用することで、速やかに全教職員で共通理解を図る体制が整ってきた。いじめ事案など緊急性の高いケースについても、臨時の職員会議を通して迅速に対応することができ、組織的な対応につながっている。これらの取組により、教職員間の共通理解が深まり、保護者との連携も密になったことで、問題行動の早期発見・早期対応が可能となり、児童の安全意識や規範意識の向上が見られるなど、安心・安全な学校づくりに一定の成果を上げたと考えられる。</p>

取組内容②

たてわり班活動（集会・清掃・サマフェス・全校遠足・卒業生を祝う会等）を計画的に実施し、学期に1回以上の異学年交流の機会をつくることができた。これにより、児童は互いの顔や名前を覚え、学年を超えた関わりが日常的に見られるようになった。活動の中では、高学年が低学年を思いやり教えたりする場面が多く見られ、リーダーシップを発揮する姿が育ってきている。また低学年が高学年を頼り、よい手本としてまねる様子も見られ、「下の学年の子に優しくしたい」といった次年度への意欲につながっている。

また、代表委員会や高学年を中心として「あいさつ運動」をほぼ毎日実施したことで、あいさつの意識が向上し、進んであいさつを交わす姿がよく見られた。学校アンケートにおいても、「すすんであいさつが言えます」に最も肯定的に答えた児童の割合は72.6%となり、目標数値を上回る結果となった。

以上のことから、計画的なたてわり班活動と継続的なあいさつ運動は、児童のコミュニケーション能力の向上や望ましい人間関係の形成に結びついていると考えられる。これらの取り組みを通して、児童の自己有用感が高まり、様々な友達と協力しようとする姿が育ってきている。

今後の改善点

取組内容①

これまでと同様に、スキップや生活指導連絡会を活用したこまめな情報共有を継続していくことが重要である。また、担当者間の引継ぎ漏れを防ぐため、職員会議で共有した内容を「いいとこみつけ」に記録する取組は一定の効果을上げており、今後も継続していく必要がある。一方で、生活指導連絡会で扱う内容について、「共有すべきレベルかどうか」という基準を教職員間でより明確にし、情報の質や優先度を整理することが課題である。さらに、不登校傾向のある児童や問題行動を起こす児童については、その背景や家庭状況を丁寧に把握し、保護者との連携を一層深めながら、継続的かつ組織的な支援を行っていくことが求められる。

取組内容②

低学年のフォロワーシップについては、今後も丁寧な働きかけを続けていく必要がある。低学年の中には高学年の声かけが十分に届いていない場面も見られるため、リーダーシップの育成と合わせて、協力して活動に参加する態度を段階的に育てていきたい。また、高学年に役割が大きくなりやすいため、他学年の児童にも、主体的に関わろうとする意欲を高める工夫を進めていく。

あいさつ運動については、今後も継続させながら、朝だけでなく、廊下でのすれ違い時や教室の入退室時、来客へのあいさつなど、学校生活の様々な場面で自然にあいさつができる姿を目指していく。また、声の大きさや相手意識など、あいさつの「質」にも目を向け、児童自身が気持ちのよいあいさつについて考える機会を充実させていく必要がある。さらに、あいさつ運動が高学年中心になりやすい点を踏まえ、全学年が取り組める「あいさつ強調週間」の設定や、代表委員会の新たな取り組みを考える機会づくりなど、全校的な広がりを意識した工夫も進めていきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>年度① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）</p> <p>年度② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を63%以上にする。（基本的な方向5 健やかな体の育成）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践に取り組み、学力向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校教育アンケートにおける「自らすすんで勉強に取り組みましたか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を38%以上にする。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科において、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校教育アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を31%以上にする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>自分の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣の確立に努めるとともに体育科の授業において計画的に体力向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校教育アンケートにおいて（健康生活に関する内容：運動、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。 なわとび、ダンス、かけ足などの運動に関する週間を通期で3回以上行う。 規則正しい生活習慣を身につけるよう健康生活に関する強調週を学期に1回実施する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を継続して取り組んでいる結果、学校教育アンケートにおける「自らすすんで勉強に取り組みましたか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合が50.2%と目標を達成できた。肯定的に答える児童の割合も含めると91.5%となり、多くの児童が進んで学習できたと考えられる。</p> <p>取組内容②</p> <p>国語科の授業をどう行うのか、講師を招聘して全体で研修したり、授業討議会で話し合い、指導方法や板書の仕方などを共通理解したりすることで、教師が指導法について理解を深めることができ、授業に役立てることができた。また、ペアやグループで友達と意見を交流することで、自分の考えをはっきりと発表でき、友達の意見を聞いてさらに考えを広げたり、深めたりする児童が増えてきた。これらの取り組み</p>

から、児童の学校アンケートの「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできているか」の項目で最も肯定的に回答している児童が42.8%になっていて、指標を達成することができた。

取組内容③

学校教育アンケートにおいて（健康生活に関する内容：運動、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を89%と目標を達成できた。元気アップ週間を通して定期的に児童が自分自身の生活習慣の見直しができていると考えられる。

今後の改善点

取組内容①

学年が上がるにつれて、数値が下がる傾向にある。そのため、低学年のうちから学習に対する意欲を高め、学年が上がっても、自ら学習に向かう姿勢を継続してつけさせていきたい。また、自ら学習に取り組みたくなるような授業や学習環境をつくることができるよう、研修を行ったり、児童の反応をもとに授業を振り返ったりする必要がある。さらに、基礎学力の定着に課題がある児童に対して、放課後学習などの支援を行う必要もある。

取組内容②

全校では達成できているが、できていない学年もあるため、話し合う活動を増やしたり方法を工夫したり、児童が実感するような取り組みを行うことが必要になる。また、児童が話し合いをしたことで自分の考えが深まったり広げたりできたという実感を得られるような声かけやノート指導なども必要となる。

取組内容③

次年度は講堂使用不可の時期を踏まえ、運動をする機会の確保が求められる。元気アップ週間に関して、規則正しい生活は児童の意思のみでできるものではないので、引き続き家庭に啓発を行う必要がある。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>年度① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の51%以上にする。[ただし事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く] (基本的な方向6 教育DXの推進)</p> <p>年度② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を87%以上にする。 (基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 学習者用端末を活用した実践に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校教育アンケートにおける「日々の学習の中で、学習者用端末(パソコン)を活用して学習していますか」の項目について、最も肯定的な回答をする児童の割合を48%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 読書活動を充実させ、言語能力・情報活用能力などを育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校教育アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 	C
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学校だより・学年だより・学校ホームページやミマモルメなどで学校生活の様子を伝え、家庭や地域と連携して子どもの教育に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学年だよりを月1回以上発行し、保護者が知りたい情報を発信する。 行事や学年の特色のある取り組みについて、学校ホームページ上で情報発信を行い、家庭や地域に学校生活の様子を伝えていく。 ミマモルメを活用したアンケートの回答率を50%以上にする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>主要な教科や外国語の授業などで、デジタル教科書を活用して学習することにより、児童の理解を深め、正しい発音などを身につけさせることができた。また、休み時間にタイピング練習をしたり、授業時間だけでなく、委員会活動やクラブ活動など色々な場面でわからないことを調べたりタブレットを日常的に使用したりしてきた。さらに、Canva や Classroom の研修を行ったり、使用方法について共有したりすることで、より活用できるように努めた。その結果、日々の学習の中で学習者用端末を活用していると肯定的に答える児童は80%以上になった。しかし、最も肯定的に答える児童は44.3%で、目標48%を下回った。原因として考えられるのは、児童自身が学習者用端末(パソコン)を日々の学習の中で活用したという実感につながらなかったためだと考えられる。</p>

取組内容②

委員会児童による読み聞かせを行ったり、図書館司書やボランティアによる図書館開放をしたりして、児童が読書に興味関心を持てるような取り組みは行ってきたが、指標を下回った。学年が上がるにつれて学習内容が増加することや図書室までの移動に時間がかかることなどが大きな要因であると考えられる。

取組内容③

学校からのおたよりをミマモルメで発信することで必要な情報を確実に保護者に届けることができ、家庭との連携に役立てることができた。また、ホームページでは学校生活の様子や学校の取り組みについて広く発信することができ、家庭や地域の理解も得ながら連携して児童の教育に取り組むことができた。学校生活に関するアンケートの回答率も80%と目標の50%を大きく上回り、多くの保護者の意見を取り入れながら、よりよい教育環境づくりに取り組むことができた。

今後の改善点

取組内容①

児童がさらにタブレットを活用できるように Canva や Classroom の研修を行ったり、使用方法について共有したりする。また、児童自身が学習者用端末(パソコン)を日々の学習の中で活用したと実感できるような使用方法を模索し、共有していく。

取組内容②

図書委員会と放送委員会が一緒になっていることで、図書の活動に重きを置いて委員会活動を進めることが難しい。そのため、定期的に委員会児童による読み聞かせを行っているが、読み聞かせをする前に練習する時間の確保が困難な状況である。委員会活動がさらに活発になるように、委員会活動のもち方を模索していく必要がある。

来年度は、移動図書館の導入や学級文庫の充実など、児童が意欲的に読書に取り組めるような方法を考えていく。

取組内容③

今後もホームページで日々の児童の学習の様子や行事の様子などを発信し、学校の取り組みを理解してもらいながら、家庭や地域と連携して児童の教育に取り組む。さらにミマモルメを積極的に活用して情報発信をおこなうことで、保護者と学校との連携を深めていく。